

広報

# かつやま

1 月号  
No.543

平成13年1月11日発行



山岸新市長初登庁

(12/26 勝山市役所前)

新春インタビュー

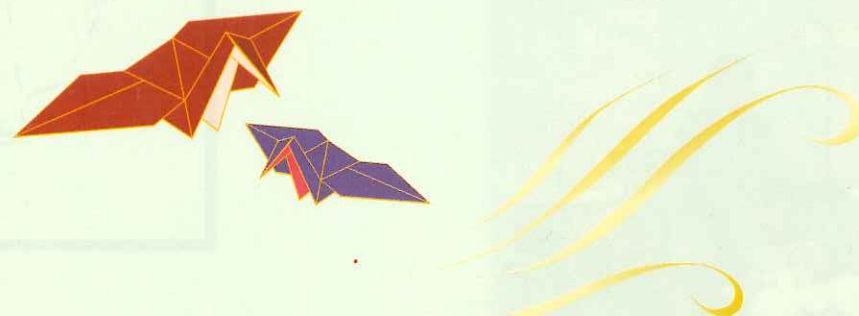
# 山岸新市長に聞く



西暦2001年。夢とロマンに満ちあふれた21世紀が幕を開けました。

昨年末に第13代勝山市長に就任した山岸正裕市長に、今後の市政運営についてインタビューをしました。聞き手は、今年成人式を迎えた渡辺賢治さんと梅田貴子さんです。





## 産業基盤整備に力を入れたい 市民と一体となって政策研究を

市長 明けましておめでとうございます。

梅田 おめでとうございます。

渡辺 おめでとうございます。

梅田 二十一世紀最初の勝山市長になられたわけですが、今のお気持ちを聞かせただけですか？

市長 二十一世紀は勝山市も発展するということを、みなさんが期待していると思うんです。期を同じくして私が市長になったということで、ひじょうに期待が大きいというを感じています。その期待に背かないようにしっかりとがんばりたいと思います。

梅田 最も力を入れたいと思われる事業はどのようなことですか。

市長 やはりまちに元気を取り戻したいということですね。勝山ってすばらしいところだということを感じて、胸を張って言えるような、そんなまちにしたいですね。そのためにはやっぱり若い人たちの意欲のあるまち、またお年寄りたちも安心して住めるまち、そういうまちにしたいと思っています。

梅田 具体的な内容についてお聞かせいただけますか。

市長 就職の受け皿がないと住めない

ですから、産業基盤整備に力を入れたいと思います。これからは観光産業にも力を入れていくべきだと思うんです。勝山の場合は、越前大仏、平泉寺、スキー場、恐竜博物館と、ほかのまちからみればうらやましいくらい施設があるわけですよ。そのようなものをどんどんPRしていきたいと考えています。これらは今まで市民の造り上げてきた財産ですから、それをたいせつにして次の時代につないでいきたいと思っています。

渡辺 今繊維産業はきびしいですね。

市長 既存の衣服用の織物については今、東南アジアや中国などの追い上げが強いので、同じものを作っているのも難しいと思います。それで繊維でないものが使われている分野、たとえば土木の資材とか医療とか、新しい繊維素材を開発して作っていくことも必要だと思っています。また、県が研究施設の開放や情報を提供するという仕組みをつくっていますから、意欲ある繊維業者の方が活路を見い出すこともできると思います。市としても、そういう意欲のある事業者、いろいろなまち

で補助や援助を考えたいと思います。  
渡辺 農業経営も難しい時代になってきていますか？

市長 農業は、米だけに頼れない時代になってきています。今、勝山にはメロンや水菜、里芋など、いろいろ特産物があります。そういうものを出荷するのと同時に、観光客に売れるような仕組みを作るのが必要だと思います。たとえば金沢の近江町市場は海産物の市場になっていますよね。全国からあそこへ安い新鮮な魚とか魚介類を買いに来るわけですよ。勝山の場合は、農産物で市場を作れないかと考えています。「勝山へ行けば、季節の野菜、山菜またはいろんな農産物がある」ということになれば、一つの目玉になるんじゃないかと思うんです。

梅田 私は今、栄養関係の勉強をしています。それで、輸入された農産物の添加物や農薬について、すごく考えさせられているんです。田舎でとれたものというのは添加物が少ない、というイメージがあります。ぜひ、そのプランを実現してください。

市長 私は市民と行政と企業もしくは事業者が一体となって、政策を研究できる仕組みをつくりたいと思っています。農業の展開についても、市民といろんな取り組みを実現できる仕組みを作りたいと思っています。



## 「ふるさとルネッサンス事業」で 人間ネットワークをつくる



市長 それから、「ふるさとルネッサンス事業」というのをやりたいと考えています。勝山も昔のどんとんのびてた時代から見れば、ちょっと沈滞してるでしょ。それをもう一回復活させたいと考えています。勝山出身で、社会的に成功した人がたくさんいらっしゃいます。大きな会社をひっぱってる人、

ＩＴ関連の会社の人、また大学で研究をしている人など。そういう人たちに年に何回か勝山に帰ってきてもらって、勝山に対していろんなアイデアやアドバイスをいただく。またそのための組織をつくりたいと思うんです。交流をとおして、ビジネスチャンスにつなげたいと思うんです。勝山に会社をつくりたいとか、就職を引き受けたいとか、いろんなかたちで話が展開することを期待しています。その基点となるのが東京勝山会なんです。勝山を郷土にする人たちのいわば同郷会で、大阪にも関西勝山会があります。一年以内に「ふるさと

とルネッサンス事業」をかたちにしたいと思います。

梅田 私も将来的には勝山に帰ってきたいと思うんですけど、就職先のことを考えるとどうしようかなっていう思いがあるんです。みんなもそうだと思うんですけど。

渡辺 大阪や名古屋などに行っている友だちもいますが、地元就職したいと思って、仕事がないんです。

市長 なるほど。でも、ある程度年をとるとふるさとに帰りたいと思うことがあるようですね。そんな人たちのためにいろんな環境を整えて、家を建てやすいようにしてあげる。そうして帰



渡辺賢治さん(20)＝鹿谷町保田＝  
福井市内大学在学中  
平成13年成人式で誓いのことばを述べる。

ってきてもらって、勝山以外で生活してきた知恵や職業で得たノウハウをまいた勝山で生かしてもらいたいと考えています。さらに、その人たちの友だちが来るとか、家族で来るとか、その輪がどんどん広がっていくと思うんです。また、水もお米も美味しいところがあるということを知ってもらおう。そんなきっかけから若い人たちが入ってきてまちも潤ってくる。その一つの手段としてふるさとルネッサンス事業をやっていききたいと思います。

## イメージアップを目指す 恐竜博物館は魅力的な存在

渡辺 福井市から見ると勝山は田舎のイメージで、若い人にとっては「スキ場しかないかな…」みたいな感じが少なからずありますね。

市長 「勝山に住んでるの、いいところに住んでるね」とか「勝山っていい雰囲気だね」とかそういうまちにしたいと思うんですよ。そういう意味で、スキー場っていうのは、イメージアップになっていくと思うんです。特にスキージャムは通年型をねらったリゾートとして、関西圏では認知されています。これからもっともって全国的にも発信してほしいと思うし、今度、恐竜博物館ができましたから、恐竜博物館が勝山市にあることをアピールしたいと思っています。梅田さんは恐竜博物館はもう見ましたか。

梅田 はい。見に行くまでは恐竜ってほとんど興味はなかったんですけど、やっぱり見てみると神秘的な感じでのめりこんでいく感じでした。

市長 恐竜には興味がないという人もいるかも知れませんが、恐竜博物館へ行くと恐竜のことや地球の歴史とかが勉強できるということになると、また違った興味がわいてくるんですね。研

究したいと思う人も増えてくるだろうし、子どもたちにとっては、恐竜の姿を見るだけでも大きな感動や驚きがあるでしょうから、そこからいろんなイメージが広がっていくと思うんです。それに恐竜のまちだなんてわかるような楽しい仕組みをまちの中に作りたいんですよ。

梅田 これからも恐竜を生かしたイベントを考えていきたいと思いますか。

市長 イベントは人を集める最大の手段ですからやりたいですね。恐竜エキスポは県がやったイベントですが、八十万人の人たちが来ましたよね。恐竜というのはブームも多少あるかも知れないけど、ひじょうにロマンをかき立てる、根強い人気をもっていると思うんですよ。今恐竜の映画が上映されていますが、また恐竜博物館へ行ってみようかという人も増えると思います。一年に一回くらいは、恐竜に関係したイベントをやりたいと思っています。渡辺さんは恐竜博物館へ行かれましたか？

渡辺 申し訳ないんですが忙しくて行っていません。

市長 今、行けばいちばんゆっくり見

られると思いますし、とにかく一度行ってみてください。恐竜に興味がなくとも、おもしろいなと思うことがありますよ。

渡辺 ぜひ行きたいと思っています。

市長 県教育委員会は、県立大学に恐竜などを研究する学部をつくって、そのフィールドワークを勝山の恐竜博物館でやりたいというふうに考えてます。それをもっともって発展させられれば、大学のある部分を勝山にもってこれるんじゃないかなとも考えています。また、発掘現場にも人が入れて、発掘ができるといいんですけど…。県の発掘調査との関係があるので、今後の課題として考えていきたいと思っています。



梅田貴子さん(19)＝滝波町4丁目＝  
神戸市内大学在学中

平成13年「新成人の声」作文で最優秀賞受賞。



# スキー場は若者に人気 まちなかのにぎわいづくりも 考えたい

渡辺 年に二・三度スキーをしに行くんですけど、雪が少ないと雁が原で滑れないので、スキーヤーにとってはさびしいですね。今シーズンは雪が多いといいんですけど。

市長 暖冬だと標高の低い雁が原は影響が大きいですよ。

梅田 芝生を植えてそりをできるようにしたりできないでしょうか。

市長 雁が原は仕事を終わってからでも来れるスキー場なので、ナイトースキー場として人気が高いですよ。福井からだと友だちもくるでしょう。スキージャムの評判はどうですか。

渡部 スキージャムはかなり評判がいいですよ。

市長 神戸のお友だちの中にもスキージャムに行ったという人がいるんじゃないんですか。

梅田 サークルの先輩がスキージャムに行ったことがあるという話を聞いて、うれしかったです。「勝山」っていつてもわからなくても、スキージャムの名前で納得してもらえます。

市長 スキー場に来た人に、勝山のまちを楽しんでもらうことを考えないと

いけないと思っています。平泉寺や越前大仏、それに勝山のまちなかにも足を運んでもらえるといいですね。スキー場へ行く人は恐竜博物館の前を通りますから、恐竜博物館とほうまく連携できると思うんです。

梅田 若い人の間でふるさとの話をしますが、遊ぶところや交通の便のいいところに住みたいという子がたくさんいます。勝山でもショッピングができるところをつくっていただけるといいんですけど…。

市長 本心にそうだと思うんですよ。人のにぎわいが先か、お店が先かというところが問題ですが、これは本当に努力しないといけないと思うんです。勝山の活性化の一つに、旧市街地にぎやかさを取り戻したいと思っています。そのためには夢のある話がないと人が集まらないので、人に来てもらう仕組みを作って、ここに住みたいな、ここに住んでみたいなと思えるようなまちなしにしたいといけないと思うんです。交流人口を定着人口に変えるということを考えているんです。

梅田 神戸の人たちは逆に田舎にあこ



がれているので、私が自然の中で遊んだ話をするとうらやましがります。勝山をにぎやかにしてほしいという思いもあります。自然が少しずつ消えていくのも寂しいので、自然を生かした何かを考えていたきたいと思っています。

市長 それは基本的な考え方としてとてもたいせつなことだと思っています。勝山の特質というのはそこにありますから、何でもかんでも都会のようにするのがいいことだとは思っていません。外へ出ると、勝山の自然のよさがわかるんですよ。自然を最も大きな財産として生かしていきたいと思っています。

渡辺 福井県は「住みやすさ日本一」といわれていますが、住んでいる人からすればそれほど感じていないんじゃないでしょうか。勝山市も実感できる住みやすさを考えてほしいなと思います。



# 高齢者も元気な 「健康リゾート都市」に

梅田 高齢者の方がより快適に生活できるために、どのような対策を考えていらっしゃるのですか。

市長 私の年代の考える高齢者対策とみなさんの年代の考える高齢者対策、そして本当に高齢者になった人たちが考える高齢者対策とは、ぜんぜん違うと思うんです。ですから、いろんな立場の意見をいただけるような場もつくっていかねばならないと考えています。高齢者になっても心も体も健康であるというまちづくりをしないとイケないと思うんです。介護保険とがどどん行政のコストも高くなるわけですから、健康でいてもらったほうが経費も少なくて済みます。本人にとってもいいですし、市にとってもいいわけですね。

梅田 そつですね。

市長 そういう意味からも、健康増進センターのような、高齢者の人たちが楽しんで健康づくりや体力づくりができる環境づくり、つまり施設整備や、ソフト面での対応もいろいろやりたいと思っています。それに、私はジョギングをしているのでわかるんですが、朝、散歩している人が本当に多いんで

すよ。ご夫婦で散歩している人もいますし、九頭竜川の弁天の堤防を歩いている人がたくさんいらっしゃいます。梅田 交流の場っていい感じですね。市長 それで、すぐにはできないでしょうけど、散歩のコースとかジョギングのコースを造ってはどうかと思うんです。歩いているだけでも気持ちがいいといえる場所を整備して、「そういうところを歩きたい」という人たちが勝山を訪れてくれるようにしたいと思うんですよ。「健康リゾート都市」というまちづくりのコンセプトを取り入

れていきたいと思っています。渡辺 勝山はスポーツをする場所が少ないんですよ。福井だったら運動公園だし、大野だったらエキサイト広場だし、勝山にもそういうところがあるといいんですけど。市長 そうそう、そこが問題なんですよ。長尾山総合公園ですぐにすべてのものはできませんが、最低、屋内運動場がほしいとか、陸上競技場がほしいとか、絞り込みをしないとイケないと思うんです。



## 若いころは画家志望 今は、勝山をデザインしたい

梅田 市長さんは若いころどんな夢をおもっていましたか。

市長 画家かデザイナーになりたかったです。大学時代はサークル活動で美術研究会に入って一生懸命描いていました。おかげで仕事をできるようになって、繊維のほうでも結構、デザインだとか色彩感覚だとか柄だとか、若いころに一生懸命やったことを生かすことができました。

梅田 今度は勝山のいい風景を描いてください。

市長 大きな意味で、勝山をデザインしたいですね。明るい、「センスがあるなっ」という感じに。

渡辺 すてきですね。

市長 今日はいろんなことをお話ししましたが、すべて市長一人で考えて市長一人でできるわけじゃないんですよ。若い方がたの考えもたいせつなんです。これからみなさんの意見を聞かせていただきたいと思います。みなさんが意見を言えて、みなさんの意見を行政に生かせる仕組みを考えたいと思っています。そのときにはぜひ積極的に出てきていただきたいと思いま

す。  
梅田 はい。これからはがんばってください。  
市長 市民の期待に添えるようにがんばりたいと思います。  
渡辺 よろしくお願いします。



会談後、談笑する山岸市長と  
渡辺さん（左）、梅田さん  
（勝山市ふれあい交流館  
「勝山ニューホテル」にて）



## 退任のごあいさつ

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

私は、昨年12月25日をもちまして勝山市長を退任いたしました。

思い起こしますと、昭和42年9月に市議会議員に初当選し、昭和63年11月に辞任するまで議会の立場から市政運営に携わり、そして昭和63年12月からは勝山市長として市政運営に当たってまいりました。議員時代の21年3カ月、そして市長としての3期12年間を合わせた33年3カ月の間、勝山市のために情熱を傾け日々まい進できましたのも、市民の皆様の温かいご支援とご協力、ご理解のたまものと存じ、衷心より厚くお礼申し上げます。

私は市長就任以来、幅広い交流と人づくりの進むまちを目指し、「21世紀へ躍動、自然と歴史、ふれあいの里・勝山」を市政運営の基本理念として、勝山市の活性化に取り組んでまいりました。市民の皆様とともに歩んでまいりましたこの12年間を振り返るとき、感慨無量でありますとともに、微力ではありましたが市の発展と市民福祉向上のために寄与できた喜びを、今かみしめているところであります。

新しい世紀を迎えたまさにこのとき、山岸正裕市長が誕生しました。私は、愛する勝山市がさらに希望に輝く飛躍と発展を遂げますことを、市民の皆様とともに念願するものでございます。

市民の皆様これからますますのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。退任のあいさつとさせていただきます。



今 井 三右衛門



## 12月定例市議会

### 補正予算など 14件を可決

12月定例市議会が、12月4日から18日までの日程で行われました。

12月補正予算など14件を可決、決算2件を認定、専決処分1件を承認、また監査委員の選任について同意しました。

一般質問は7日と8日の2日間行われ、8人が質問に立ちました。



#### 決まった主な内容

##### 【予算】

一般会計は八千八百四十六万六千円を増額し百三十一億八千三百三十三万九千円としました。

特別会計は、下水道事業会計と介護保険会計で合わせて四百一十一万一千円増額したほか、市有林造成事業会計と国民健康保険会計並びに簡易水道事業会計で二百三十九万一千円減額したことにより、予算総額を百億五千百二十二万二千円としました。

##### 【決算】

平成十一年度勝山市歳入歳出決算並びに、水道事業会計決算を認定しました。

企業会計の水道事業会計は、千二百二十万二千円増額し十二億十五万九千二百七十七円としました。

補正の主な内容は次のとおりです。

- 職員人件費 千九百三十七万一千円の減額「人事院勧告に準ずるもの」
- 介護予防施設整備事業 四千二百五十八万八千円「平泉寺荘改修」
- 農地災害復旧事業 千六百四十九万一千円
- 財政調整基金積立金 八百六十七万八千円

#### 一般質問

##### 【要旨】

##### 介護保険について

清水清蔵議員

一、介護保険に関連して次の点を問う。

①在宅サービスの利用状況について。

##### 【条例制定等】

○勝山市和みの杜の設置及び管理に関する条例「火葬場新設による制定」

○勝山温泉センター「水芭蕉」の設置及び管理に関する条例の一部改正「夜間休憩施設営業の廃止等によるもの」

##### 【専決処分】

○調停の変更に関する専決処分の承認「クリーンセンターの撤去期限延長に関する調停の変更」

##### 【監査委員の選任（同意）】

（敬称略）

中沢 弘（67） 片瀬 二（再任）

- ②介護保険の趣旨の普及について。
- ③ケアマネージャーの資質向上について。
- ④介護予防サービスの充実について。

市長Ⅱの①、支給限度額に対する全体の平均利用率は三二％になっている。個々の利用状況はケアマネージャーを通じて実態調査を実施していきたい。市長Ⅱの②、保険料徴収については

広報に折込チラシを入れ、対象者には郵便にて金額と徴収方法をお知らせした。各種団体等から説明会の連絡をいただくと、職員を派遣している。

市長Ⅱの③、平成十三年度からは、介護相談員派遣事業を新規に立ち上げ、利用者の日常的な不平・不満・疑問に対応して改善方法を探り、介護サービスの質向上に努めていきたい。

市長Ⅱの④、生きがいサービス、地域ふれあいサロン、食生活改善、痴呆予防などの介護予防や生活支援事業、自立者のヘルプサービス事業として安心サポート事業などの自立支援事業の推進に積極的に取り組んでいる。今後とも、これらの介護予防と自立支援事業の推進に努めていきたい。

二、臓器提供カードに関連して次の点を問う。

①臓器提供意思カードの普及について。

②骨髄バンク登録について。

保健衛生課長Ⅱの①、これまで県と連携して、健康まつりや地区文化祭などのイベントにチラシやカードを配布し、健康と福祉フェスタでは臓器移植コーナーを設けてPRに努めてきた。今後とも、臓器移植に対しての理解と普及啓発活動を推進する中で、カードの裏面の意思確認欄も記入するようPRに努めていく。

保健衛生課長Ⅱの②、市民のコンセンサスを得るために、臓器移植普及推進事業と並行して、各種会合やイベント開催時にPRに努めていきたい。

## 産業の

### 展望について

笠松捷太郎議員

一、東縦幹線の中央分離帯の存在意義について。

建設部長Ⅱ一、道路の機能、交通量、速度等が考慮され、安全性の面からも中央分離帯は必要なものである。沿線施設への侵入のための中央分離帯の撤去は、現状では困難である。

二、市職員採用試験の実態と資質向上のための研修について。

市長公室長Ⅱ一、一次試験は専門機関にすべて委託し、学歴を問わずすべての受験者に高校卒業程度的一般教養試験を行っている。一次試験の合格者に対して二次試験を実施し、口頭試問や文章能力を図る方法により公務員としての適正能力を判断し最終合格者を決定している。職員の資質向上のための研修は、県自治研修所を中心に行っている。職員の心構えにかかる研修は、

自治研修の接遇研修や公務員研修の中で行っている。

三、市内産業の現状把握と展望に関連して次の点を問う。

①商業の現状について。

②繊維産業を中心とする諸工業の実態について。

③諸業界の市外からの施工参入について。

④農地減反政策への対応について。

⑤企業誘致等雇用対策について。

商工観光課長Ⅱ三の①、著しい自動車社会の進展と消費者ニーズの多様化により、一昔前より大きく様変わりしている。「勝山市商店街活性化推進事業補助金交付要綱」を新たに制定した。事業者が創意工夫し商店街等の振興と活性化の一助としたい。

商工観光課長Ⅱ三の②、繊維産業は事業所数では約七割、就業率では約六割、製造品出荷額等では約五割を占めている。本県の繊維産業においては一部の業種にあつてはゆるやかな改善傾向が見られるものの、長引く景気低迷の影響や個人消費の冷え込みが回復せず、依然生産活動は厳しい状況が続いている。今後各企業がいかに独自性を発揮し新たな分野を開拓していくかが生き残りのかぎとなると考えている。市としても今まで以上に業界等との連携を深めながら企業努力では補えない部分

を積極的に支援していく。

建設部長Ⅱ三の③、市外業者の施工については、許可業種でないものや一部関連会社による施工であるものと思われる。今後とも地元業者を最優先に指名、発注していく。

農務課長Ⅱ三の④、十三年度の生産調整は二七・五%の目標になっている。米生産農家の経営安定を図る面からみやむをえないものと考え、円滑な推進を図っていきたい。

商工観光課長Ⅱ三の⑤、「おくえつ雇用開発協議会」等の関係機関との連携を密にし、雇用対策に取り組んでいきたい。企業誘致は若者の定着、雇用の創生のうえできわめて重要であると考えている。策定中の総合計画の中でも企業誘致については最重要施策として位置づけていく。

四、総合計画の主要課題と縦横の連携について。

①恐竜博以降の勝山市の主課題について。

②部課間の連携の実態について。

企画課長Ⅱ四の①、県立恐竜博物館と定期的な打合せや市民ネットワークの基礎づくりなどの準備作業をすすめており、十三年度からの施策展開に備えている。

保健衛生課長Ⅱ四の②、ごみの分別説明会には保健衛生課全職員、市民福祉

部係長以上と全部課長で対応した。ス  
テーションの指導にあつては全職員体  
制で実施した。

## 長尾山総合公園

### 計画について

井上 馨議員

一、京福越前本線存続の取り組み  
について。

京福対策室長「一、十三年度以降の方  
針・方策については、活性化協議会で  
協議と論議を重ねている。「行政支援  
」か、「第三セクター方式」または「上  
下分離方式」の提案があり、今後活性  
化協議会で調整されるものと思われる。

二、長尾山総合公園事業の今後の  
計画と、市民の要望する施設の  
建設について。

市長「一、一期事業の八十五ヘクタ  
ールのうち七三%の七十・五ヘクタール  
が買収済みになっている。エキスポ施  
設の撤去後の広場は、十三年度での整  
備をできるだけ早い段階に発注し、一  
期エリアの六〇%くらいを夏場をめど  
に供用開始したい。多くの市民の憩い  
の場になると思っている。一期事業区  
域の残るエリアについても、平成十五

年度までに随時供用開始していかな  
ければと考えている。

## 情報公開条例 開示状況について

山田 安信議員

一、情報公開条例の申請と開示の  
状況について。

総務部長「一、これまでの開示請求件  
数は九件で、そのうち五件を開示、一  
件が部分開示から全面開示に変わり、  
二件は対象外、残りの一件が手続き中  
である。開示の判断基準は、個人のプ  
ライバシーが侵害されるものや、法人  
等の利害が著しく損なわれるものなど  
もあり、客観的、合理的に判断するこ  
とになっている。今後とも目的に添っ  
て情報公開の推進を図っていく。

二、福井空港周辺整備基金への貸  
付金の問題について。

総務部長「二、判決は、財団への貸付  
状態が違法であったということであり、  
財団への貸付自体を違法であると認定  
したものではない。財団による地域振  
興策はますます重要になってくること  
からも、貸付は必要であると考えてい  
る。

三、恐竜エキスポに関連して次の  
点を問う。

- ① 観光振興と地場産業振興をどう  
結びつけるか。
- ② 赤字額の負担拒否について。

市長「三の①、経済的な効果とともに  
地元産業の活力の育成と「恐竜王国」  
を全国に発信することができたと評価  
している。市民が一つの目標に向かっ  
て活動し成功させたという自信が育っ  
たことが最も大きかった。勝山市にお  
ける費用対効果はじゅうぶんあったと  
思う。恐竜イベントを一過性のイベン  
トとせず、将来の勝山市の活性化に寄  
与すべく、培われた有形無形のノウハ  
ウを活かしていきたい。

市長「三の②、県から具体的な話を聞  
いていない。

四、高校問題検討委員会の意見書  
の取り扱いについて。

教育長「四、検討委員会では、熱心な  
討議がなされた。検討委員会の意見を  
尊重して慎重にすすめていきたい。

## 短期大学の

### 誘致について

野尻佐太郎議員

一、県立恐竜博物館に短期大学を  
誘致することについて。

市長「一、県立大学の学長との話し合  
いの中で、勝山に一学部持つてこれな  
いかというお話をしてきたが、現時点  
では何とも申し上げられない。

二、総合福祉センターの設置につ  
いて。

福祉事務所長「二、市内公共施設の遊  
休施設活用について、検討中である。  
現在策定中の総合計画の基本計画で反  
映していきたい。

## 市職員の 研修充実について

椿山 弘議員

一、中山間地域等直接支払制度に  
ついて。

農務課長「一、制度で義務づけられて  
いる集落協定書提出のあった数は二十  
九集落、支払対象農地面積は約四百ヘ  
クタールとなった。集落協定のできな  
い集落は九集落で、高齢化や後継者不  
足で生産活動を続ける見通しが立たな  
い、リーダーがいらないなどが主な理由